【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成28年4月14日(2016.4.14)

【公開番号】特開2014-183499(P2014-183499A)
【公開日】平成26年9月29日(2014.9.29)
【年通号数】公開・登録公報2014-053
【出願番号】特願2013-57397(P2013-57397)
【国際特許分類】
Ｈ０４Ｎ　7/18　(2006.01)
Ｂ６０Ｒ　1/00　(2006.01)
Ｇ０６Ｔ　1/00　(2006.01)
Ｇ０６Ｔ　3/00　(2006.01)
Ｅ０２Ｆ　9/26　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０４Ｎ　7/18　Ｊ
Ｂ６０Ｒ　1/00　Ａ
Ｇ０６Ｔ　1/00　３４０Ｂ
Ｇ０６Ｔ　3/00　１００
Ｅ０２Ｆ　9/26　Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成28年2月26日(2016.2.26)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
作業機械に取り付けられる複数のカメラが撮像する複数の入力画像を用いて出力画像を生成する作業機械用周辺監視装置であって、
前記作業機械の周囲にある複数の監視空間のそれぞれにおける人の存否を判定する人存否判定手段と、
前記複数の入力画像を合成して出力画像を生成する画像生成手段と、を備え、
前記画像生成手段は、前記人存否判定手段によって人が存在すると判定された場合に前記複数の入力画像の合成方法を変えて出力画像を生成する、
作業機械用周辺監視装置。
【請求項２】
前記画像生成手段は、人が存在すると判定された監視空間に関する入力画像を、人が存在しないと判定された監視空間に関する入力画像よりも優先して用いて出力画像を生成する、
請求項１に記載の作業機械用周辺監視装置。
【請求項３】
出力画像において、１のカメラの入力画像に対応する出力画像部分の大きさは、該１のカメラに関する監視空間に人が存在しないと判定された場合よりも、該１のカメラに関する監視空間に人が存在すると判定された場合のほうが大きい、
請求項１又は２に記載の作業機械用周辺監視装置。
【請求項４】
前記複数のカメラは、撮像空間が重複する第１カメラ及び第２カメラを含み、

前記複数の監視空間は、前記第１カメラが撮像可能な第１監視空間、及び、前記第２カメラが撮像可能な第２監視空間を含み、
前記画像生成手段は、撮像空間が重複する部分に対応する出力画像部分の生成では、前記第１監視空間に人が存在し且つ前記第２監視空間に人が存在しないと判定された場合に前記第１カメラの入力画像を優先し、前記第２監視空間に人が存在し且つ前記第１監視空間に人が存在しないと判定された場合に前記第２カメラの入力画像を優先する、
請求項１乃至３の何れか一項に記載の作業機械用周辺監視装置。
【請求項５】
前記画像生成手段は、平均化処理を用いて、撮像空間が重複する部分に対応する出力画像部分を生成する、
請求項４に記載の作業機械用周辺監視装置。
【請求項６】
前記複数のカメラは、後方カメラ、左側方カメラ、及び右側方カメラを含む、
請求項１乃至５の何れか一項に記載の作業機械用周辺監視装置。